

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

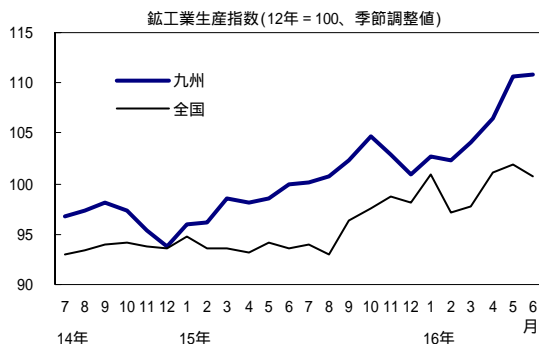
前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年5月）	今回（平成16年8月）	
住宅建設	減少	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、車載向けのIC、デジタルカメラ向け映像デバイス、デジタル家電向けシステムLSI等が好調で、高水準の生産が続いているが、オリンピック関連需要の一段落もみられ、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、海外向けSUVタイプの自動車の生産が好調であることや造船関連が好調であることから増加した。一般機械は、船舶向けボイラー、半導体製造装置、中国向けの発電機関連等の増加から全体でも大幅に増加した。食料品・たばこは、焼酎の生産が好調であることなどから増加した。化学は、記録メディアやレンズ向けのプラスチック原料などが好調であることなどから増加した。



(備考) 平成16年6月の九州は速報値。

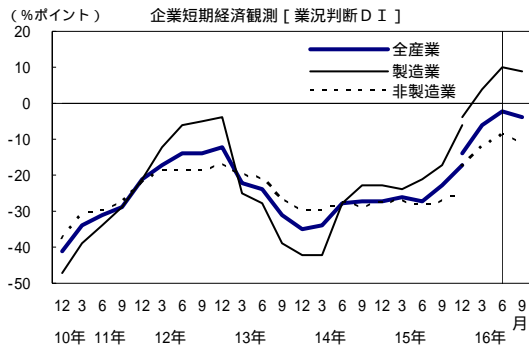
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	14.9	1.4	0.3	4.0	20.3
輸送機械	11.7	1.4	3.0	5.5	6.1
一般機械	11.0	14.8	31.2	33.4	2.8
食料品・たばこ	10.8	1.3	3.5	0.5	0.6
化学	8.5	3.2	3.4	0.5	5.4
鉱工業	100.0	0.2	6.1	6.4	1.1

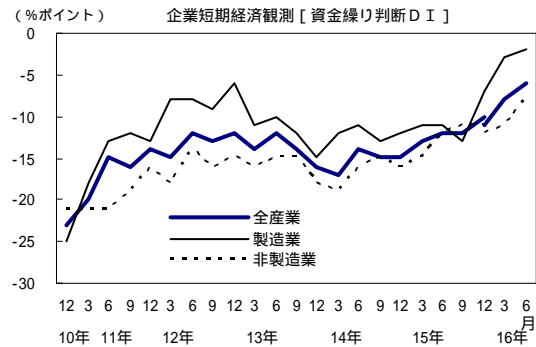
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4~6月期は速報値。

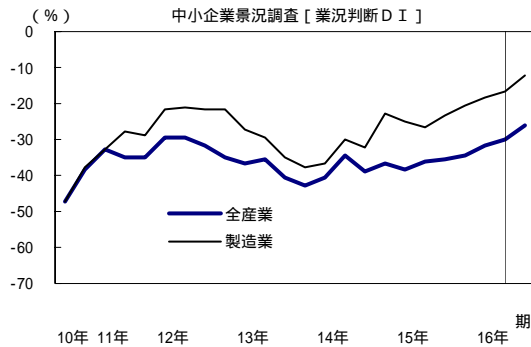
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「先月と同じくメーカーと需要家で価格の綱引きが継続している。原材料価格が高騰の兆しを見せており、メーカーはより一層の価格への転嫁を図っていく方針である (鉄鋼業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

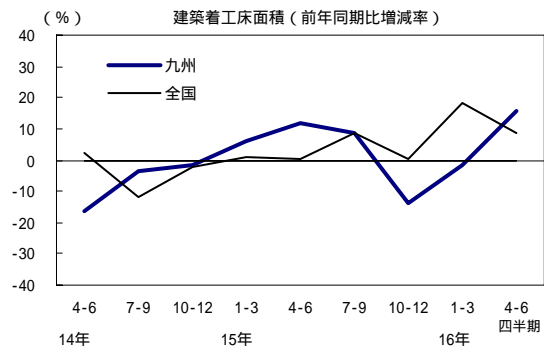
(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度画
全産業	2.6 (5.1)	9.3 (0.5)
製造業	12.1 (6.1)	39.5 (1.8)
非製造業	1.1 (4.7)	4.0 (0.4)

(備考)()は前回 (3月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

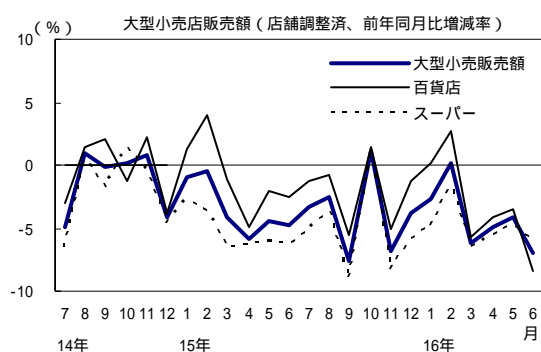
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は中旬以降気温が高めに推移し、春物婦人服などの動きが鈍く、前年を下回った。5月はゴールデンウィーク期間中の動きは良かったものの、中旬以降降雨が多く、夏物衣料を中心に季節商材の動きが鈍かったことから前年を下回った。6月は昨年行ったクリアランスセールを今年は7月に移行したことから、婦人服を中心に衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、九州・沖縄地区の7月の売上高は前年同月比で2.0%減となっている。

スーパーは、天候不順により衣料品を中心に動きが鈍かったことに加え、消費税の総額表示の影響もあり前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「猛暑の影響でエアコンは好調であるが、薄型テレビ、DVDレコーダー等は期待するほど伸びてこない。限られた枠の中で買物をしており、エアコンに支出した分、他の電気製品がやや悪くなっている(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

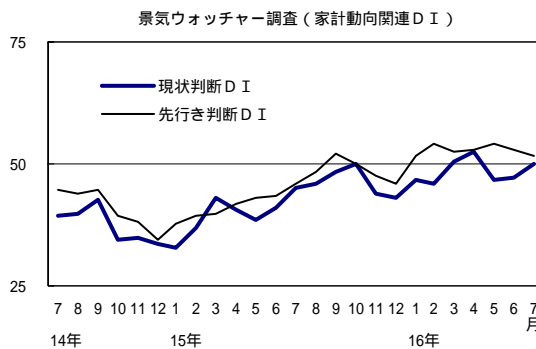
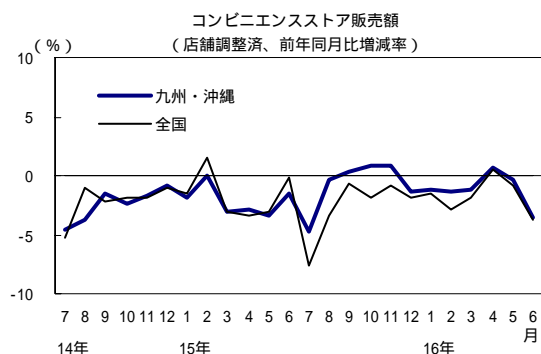


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	4.4	3.3	3.1	5.4
百貨店	2.4	1.6	1.3	5.3
スーパー	5.8	4.6	4.4	5.4
コンビニ	1.6	0.0	1.2	1.1
景気ウォッチャー	46.5	45.6	47.6	48.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
九州・沖縄地区の値。

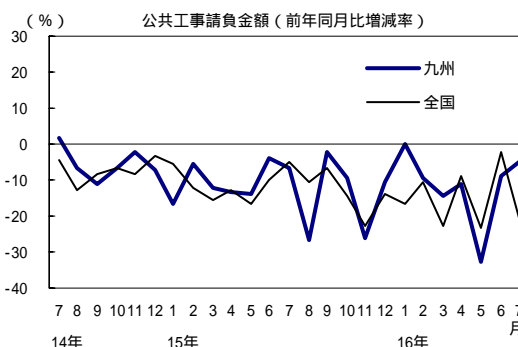
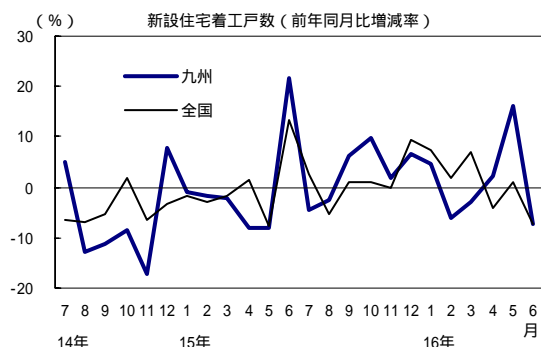
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、分譲、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

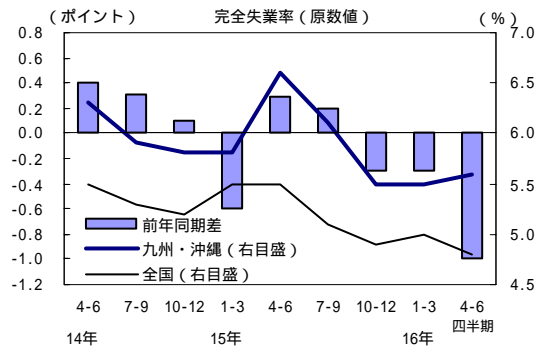
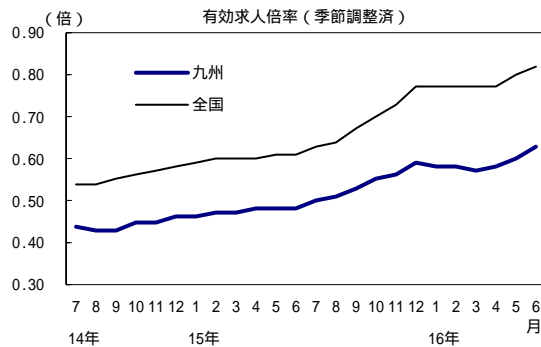


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断）]

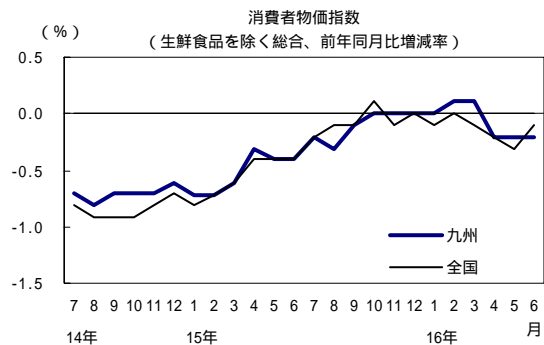
「紹介予定派遣制度の利用企業が堅調に伸びている。積極的に直接雇用する動きが見えるが、人物を見極めて雇用するというリスクヘッジを同時に取っている（人材派遣会社）」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	363	335	300	287	103
(前年比)	9.7	20.8	15.0	23.5	30.4
負債総額	1,821	1,983	787	1,071	275
(前年比)	37.3	29.7	76.6	17.6	76.4



景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計D I（特徴的な判断理由）]

<現状>

・以前に比べて大分客単価が上がったことに加え、宿泊のオプション料金も発生しており、財布のひもが緩くなっている（観光型ホテル）

<先行き>

・デジタル家電関連は既に下降線に入っている。また、新規の需要が海外生産に移行する動きが出ている。現状の段階では変わらないが、メーカーが一気に海外生産の決断を下せば、この先大変厳しい状況が続く（電気機械器具製造業）

